

自然と共生する農業づくり協議会設立趣旨

塩谷町は、町のシンボルである高原山や全国名水百選に認定されている尚仁沢湧水をはじめとした豊かな自然と、森林や田畑などの地域資源に恵まれた町です。一方、農業の生産現場では、地球温暖化の影響などにより、記録的な豪雨や台風による大規模災害が頻発するとともに、生産者（担い手）の減少・高齢化の進行によって生産基盤の脆弱化、新型コロナを契機とした生産・消費の変化などの課題に直面しており、急激な人口減少の影響も顕著に見られ、里地・里山の管理・利用の低下による生物多様性の損失が懸念されています。

近年、世界的にSDGsが広く浸透していく中で、食の分野でも、使用する原料や資材の由来、栽培プロセスへの関心が高まり、環境に配慮した食品を購入するといった消費活動の変化が見られます。こうした状況の中で、国は持続可能な食料システムの構築に向け、令和3年に『みどりの食料システム戦略』を策定し、カーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進し、2050年までに農林水産業のCO₂ゼロミッション化の実現、化学農薬の使用量半減や有機農業の取組面積を耕地面積の25%に拡大するといった目標を掲げ、同戦略を強力に推進していくこととされました。

尚仁沢の源流を持つ本町としても、平成23年度から環境保全型農業に取り組んでおり、第2次塩谷町環境基本計画においても環境にやさしい農業の取組を推進してきました。環境に配慮した農業によって、土壌や大気、河川の汚染を防ぎ、生物の多様性を保全する責任があり、SDGsに則した農業づくりが求められています。

このため、塩谷町では、町の豊かな自然環境を守り、省力化につながる先進的技術と、環境にやさしい栽培技術を地域に広げていき、持続可能な生物の多様性に富んだ自然と共生する魅力的な地域農業づくりに資することを目的として、農業関係団体(生産者)、農業指導者、流通関係者、消費者、地域経済振興関係団体等が参加する自然と共生する農業づくり協議会を設立します。

令和4年5月31日

自然と共生する農業づくり協議会